

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市シルバーセンター
2	指定管理者	仙台市健康福祉事業団・東北共立グループ
3	指定期間	H27. 4. 1～R2. 3. 31
4	施設の利用状況	《利用者数》 人 (前年度比 ○○%) 令和元年度 342日 137,091人 (前年度比 85.14%) 平成30年度 341日 161,012人 (前年度比 103.17%) 平成29年度 341日 156,064人 (前年度比 99.94%)
		《事業》 相談事業 916人 福祉用具展示室 5,302人 市民向け介護講座 13講座 3,359人
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 242,415千円 (238,000千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 138,325千円 (90,209千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 17,775千円 (20,116千円)
		・ その他収入 225千円 (278千円)
6	利用者の声	《実施状況》 シルバーセンター1階に「市長への手紙」を備えている。利用者アンケートのコーナーも常に設けて、回答を掲示している。また、事業については講座受講者に対してもアンケートを実施している。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	シルバーセンターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、豊齢社会の実現に向け、高齢者の健康増進維持や生きがいづくりに関する企画立案、施設の公平・公正な利用、福祉用具の展示などを始め、高齢者の視点に立った施設運営を行っている。	45/45
II	施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、各職員はミーティングによりグループ間でも、その日の施設利用予定をはじめ、他の職員の業務状況を把握している。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに職員への周知等、意識啓発も行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。さらに、市民利用施設予約システムの運用にあたっては、管理責任者を定め、システムを取り扱う職員を特定しそれ以外の職員には取り扱わせないようにするとともに、異動等の際には職員教育を実施し、情報セキュリティへの対策を適切に講じている。 施設使用上の事故発生に備え、連絡体制や職員の役割分担を予め決めており、災害リスクに対してもBCP(事業継続計画)を策定し職員に対する周知を行っている。	30/30
III	施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、建物等の保守点検や施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のために、館内巡回も行われている。また令和元年度は、舞台吊物機構・音響設備・監視カメラ改修工事が実施されたが、事前周知に始まり、本市との連携を密にしながら進捗管理を行い、滞りなく工事が完了できた。 その他、LED化による節電やごみ発生の抑制、水道使用量削減のための節水への取り組みなど、環境に配慮した施設運営が行われている。	23/24
IV	サービスの質の向上	利用者の意見や苦情を把握するため「市長への手紙」を窓口に設置しているほか、利用者アンケートを年1回以上行っている。 また、利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な応対や1階アトリウムにその日の館内催事状況が一目でわかるよう液晶ディスプレイを設置するなど、分かりやすい説明を心がけており、さらに、ホームページやリーフレット、情報誌発行などを通じて利用者への情報提供や施設のPRも積極的に行っている。	28/28
V	施設固有の基準	施設の使用許可や使用料の徴収・還付などを仙台市の条例や規則等に基づき適正に実施している。また、プールや浴室の衛生管理も適切に行い、利用者が安全かつ快適に利用できるような状態の保持に努めている。	27/27

三 評価総括

《指定管理者（仙台市健康福祉事業団・東北共立グループ）による自己評価》

施設管理について
 平成4年の開館以来28年が経過し、建物や設備が老朽化している状況を踏まえ緊急度合いを判断しながら修繕を行い、利用者が安全に安心して利用できるよう施設管理に努めている。経費の節減によって捻出した財源を使った館内照明のLED化や、利用者からの要望に基づいた改善等、市民サービスの向上と省エネを推進した。また、施設のフリースペースを活用し高齢者団体の活動に役立ててもらい市民活動を促進した。

総合相談センター
 高齢者及びその家族等が抱える問題が、多様化、複雑化する中、情報の提供や的確な支援先へ繋ぐなど適切な対応ができるよう情報収集に取り組むとともに職員の相談スキルの向上に努めた。

介護研修・福祉用具展示について
 市民を対象にした介護研修講座の多くが定員を超える応募があるという状況は前年度と同様であるが可能な限り受け入れを行った。専門的な知識や技術を持つ講師達とのネットワークを生かしながら介護サービスの事業者等からの希望に応じた研修を自主事業として随時、企画開催した。新たな取組としてシルバーセンター西側の広場を活用し、イベント等で福祉車両の展示を行い情報提供に努めた。

福祉用具展示室においては、毎年、仙台市介護実習・福祉用具普及事業運営委員会に諮り、最新の福祉用具を展示し、情報提供に努めたところ、福祉人材を養成する専門学校や大学等がカリキュラムの一環として定期的に利用している。展示室では、当事者や介護者のQOLの向上に資する福祉用具を毎年度選定更新し、約500点の福祉用具を実際に見て、触れて、使用体験ができるように工夫して展示している。

《施設設置者（仙台市）による評価》

令和元年度の管理運営は、協定書及び仕様書に従い適切・良好に行われた。
 シルバーセンターは、イベント開催、プール・会議室等の利用、生涯学習の場、趣味の発表機会の提供など、高齢者の様々な活動拠点として機能している。

開館から28年が経過し、年々建物及び設備の老朽化が進行している中、突発的な修繕業務にも迅速に対応し、且つ利用者の安全確保にも適切に努めながら、事故等なく管理運営が行われた。特に令和元年度は、舞台吊物機構・音響設備・監視カメラ改修工事が実施されたが、事前周知に始まり、本市との連携を密にしながら進捗管理を行い、滞りなく工事が完了できた。

各種事業の実施状況においても、総合相談（延べ916人）、福祉用具展示室（延べ5,302人）、市民向け介護講座（13講座延べ3,359人）の利用人数を記録しており、総合的に高く評価できる。

総合評価

A

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課